

# 我が国航空物流のグランドデザインの施策体系(案)

参考資料  
第3回航空物流に関する懇談会  
資料(抄)(平成20年10月8日)

## 基本骨格(中間報告)

### アジアの成長と活力の取り込み

我が国の航空物流産業の新たな成長戦略として、今後急速な増大が見込まれるアジア発着の航空貨物需要を積極的に取り込んでいく。

### 航空貨物の輸送プロセスの効率化・円滑化の促進

我が国の航空物流産業の国際競争力強化に向けて、航空会社、フォワーダー及び行政機関の連携により、航空貨物輸送プロセス全体を一層効率的かつ円滑にいく。

### 航空輸送の特長を活かした多様な物流サービスの実現

多様な荷主ニーズに的確に対応するため、ハード・ソフト両面におけるイノベーションを推進し、航空貨物輸送の特長であるスピードと品質を一層向上していく。また、海上・陸上輸送との連携等により、総合的・複合的かつ高度な物流サービスを実現していく。

### 戦略的な空港の物流機能の強化

大都市圏拠点空港については、アジアの大規模空港を意識し、物流機能の24時間化に加え、貨物の集約化や国際物流拠点の形成等を通じて、競争力のさらなる向上を目指していく。また、地方空港については、規模・ロケーション等それぞれの特性を考慮した戦略的な活用を進めていく。

## アクションプラン

### 中長期目標

- 我が国航空物流産業の国際競争力の強化**

我が国航空物流産業の成長戦略として、今後も増大が見込まれるアジア発着貨物の取り込みや航空自由化等の環境整備を通じ、国際航空貨物市場における競争力の向上を目指す。
- オペレーションの共同化・集約化**

トータルコストの削減、リードタイムの短縮、空港内の混雑緩和、環境負荷の低減等の観点から、荷主、フォワーダー、航空会社等の連携・協力の下、航空貨物輸送におけるオペレーション(積み付け、保管、輸配送等)の共同化・集約化を推進する。
- ICT(情報通信技術)を活用したイノベーション**

サプライチェーン・マネジメントの高度化に対応した高品質な物流サービスを提供するとともに、航空貨物輸送におけるオペレーションの効率化を実現するため、航空貨物情報(個品情報、位置情報、通関情報、セキュリティ情報等)の電子化及び関係者間での共有化を推進する。
- グリーン物流の推進**

地球環境保全意識の世界的な高まり、原油価格高騰によるコスト増大等への対応として、航空貨物輸送に係るCO<sub>2</sub>排出の一層の削減、エネルギー消費の効率化等を実現する。
- セキュリティ強化と貿易円滑化の両立**

セキュリティ強化と貿易円滑化の両立を目指す国際的な動きに対応し、我が国産業の国際競争力強化を図るため、輸出入手続の更なる簡素化、物流事業者のコンプライアンス体制確保等を推進する。
- 航空貨物輸送機材の高度化**

ハンドリングの効率化、輸送品質の向上、環境負荷の低減等の観点から、新たな航空貨物輸送機材(コンテナ、パレット、地上支援機材等)の設計・開発・導入により、物流システムのイノベーションを促進する。
- Sea & Air(シー・アンド・エア)輸送の推進**

国際物流サービスに対する荷主ニーズの多様化、原油価格高騰によるコスト増大等に対応するとともに、我が国空港・港湾の国際物流ハブ機能の強化を図るため、海上と航空の連携によるSea & Air(シー・アンド・エア)輸送を推進する。
- 首都圏空港の物流機能拡充**

2010年供用開始に向けて成田国際空港の北伸事業及び羽田空港の再拡張事業を推進するとともに、成田・羽田両空港の一体的活用を通じた首都圏全体の物流機能の最大化・24時間化を実現する。併せて、空港貨物地区等の混雑緩和、空港周辺の物流関連施設との有機的連携、成田・羽田間の物流円滑化等を推進する。
- 関西国際空港の国際物流ハブ機能の強化**

関西国際空港においては、アジア発着貨物を中心に、国際トランジット貨物の戦略的誘致、深夜貨物便ネットワークの拡充、海上輸送との連携等により、国際物流ハブ機能の強化を図る。
- 中部国際空港の利活用の推進**

中部国際空港においては、日本経済をリードする中部圏のものづくり産業の活力と継続的發展のため、深夜貨物便を含めた国際ネットワークの拡充、新規航空貨物の開拓、総合保税地域を活用した物流機能の高度化等により、空港の利活用を推進する。
- 地方空港の戦略的活用**

地方空港においては、規模、地理的条件等の地域特性に応じて、国内流通拠点、国際中継拠点、地域産業振興拠点等としての多様な発展可能性について検討を行う。更に、それぞれの発展可能性に応じた地方空港の戦略的な活用支援により、地域の活性化を図る。
- 空港を核とした物流拠点の形成**

空港を核とした物流拠点(航空ロジスティクス・パーク)の形成を目指して、空港貨物地区内の物流機能向上に加えて、空港周辺地域におけるアクセス改善、物流効率化、貿易手続の簡素化、物流関連産業の集積等を推進する。そのため、空港管理者、航空会社、フォワーダー、地元産業、関係行政機関等の参画による、地域的な協働システムの構築を図る。

### 当面の取組

- アジアとの連携強化(国)
- インテグレーター型事業モデルの検証(国等)
- インタクト輸送の促進(国、航空会社、フォワーダー)
- 共同混載・輸配送の促進(国、航空会社、フォワーダー)
- ICタグの活用促進(国、航空会社、フォワーダー)
- eフレートの推進(国、航空会社、フォワーダー)
- KS-RA制度の適切な運用(国等)
- AEO制度の普及促進(国、航空会社、フォワーダー)
- 次世代型コンテナの開発(国、航空会社)
- Sea & Air(シー・アンド・エア)輸送の試行的実施(国、空港会社等)
- 成田北伸事業の推進(国、空港会社等)
- 羽田再拡張事業の推進(国等)
- 成田・羽田両空港の物流円滑化(国、空港会社等)
- 首都圏臨海部の物流機能の高度化(国等)
- 関西二期事業の推進(国、空港会社等)
- 関西・中部における空港利活用の促進(空港会社、国等)
- 航空自由化の推進(国)
- 空港周辺地域の活性化支援(国、空港管理者等)
- ナレッジ・マネジメントの推進(国、空港管理者等)

## 中長期目標⑦

## Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送の推進

参考資料  
第3回航空物流に関する懇談会  
資料(抄)(平成20年10月8日)

国際物流サービスに対する荷主ニーズの多様化、燃油価格高騰によるコスト増大等に対応するとともに、我が国空港・港湾の国際物流ハブ機能の強化を図るため、海上と航空の連携によるSea&Air(シー・アンド・エア)輸送を推進する。

### Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送の位置づけ

Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送は、海上輸送と航空輸送の中間的なニーズに対応する「第3の輸送モード」として位置づけられる。

	海上輸送	航空輸送	Sea&Air輸送
コスト	安い	高い	中間
リードタイム	長い	短い	中間

### Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送を巡る世界的な環境変化

- **燃油高騰**に伴う航空輸送から海上輸送へのシフト
- 仁川、ドバイ、シンガポール等、**国際ハブ港湾機能**と**国際ハブ空港機能**を兼ね備えた物流拠点の台頭
- **中国発航空スペースの恒常的な逼迫**による直航ルートから第三国経由ルートへのシフト
- アジアから中南米等**長距離市場**へのアクセス需要への高まり

### Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送の再評価の動き

#### Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送の主な実施事例

海外では、主にアジア(生産地)から海上輸送により近隣の国際中継拠点を經由して航空輸送により欧米(消費地)へ運ぶ、国際トランジット型のSea&Air(シー・アンド・エア)輸送が実施されている。

日本で実施されているSea&Air(シー・アンド・エア)輸送は、主に特殊貨物の海上輸送又はトラック貨物のフェリー輸送と航空輸送の組み合わせによる、内際トランジット型である。

中国→(Sea)→海外経由地→(Air)→欧米

例: 中国(青島等華北地域)→仁川→欧米

日本→(Sea)→海外経由地→(Air)→欧州・南米等

例: 神戸港→ロサンゼルス→欧州

神戸港→ドバイ→欧州

名古屋港→ロサンゼルス→(陸送)→マイアミ→南米

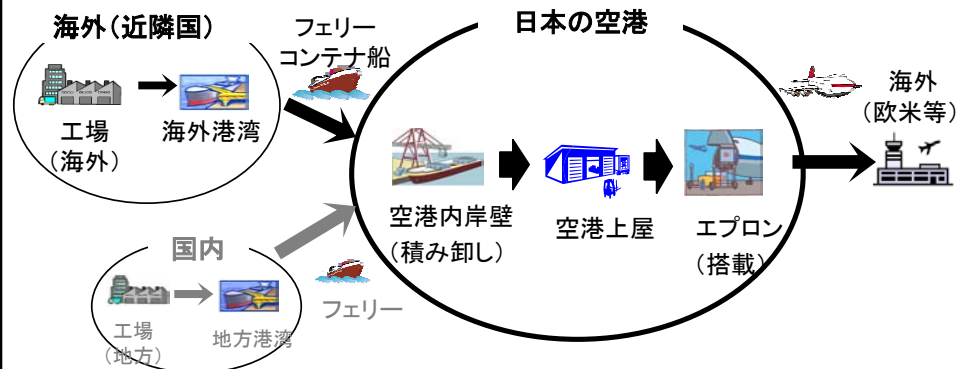
日本→(Sea)→日本国内経由地→(Air)→欧州・北米等

例: 名古屋港→中部国際空港→アメリカ

大分港→阪神港/関西国際空港→欧州

#### Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送によるアジア貨物の取り込み

今後急速な増大が見込まれるアジア貨物需要の取り込み方策として、我が国空港・港湾において、国際トランジット型のSea&Air(シー・アンド・エア)輸送を推進する。



## 当面の取組⑨

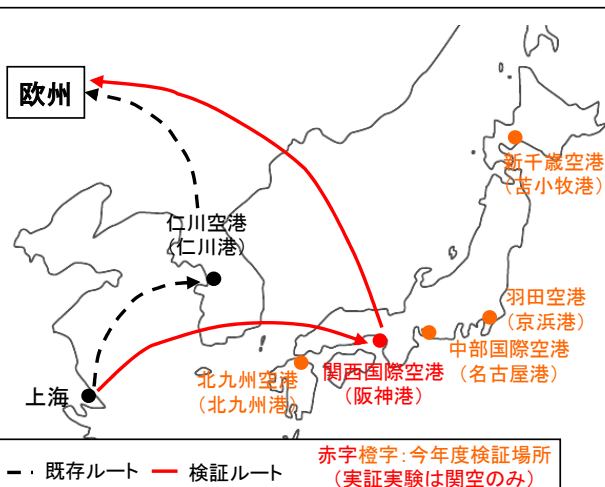
## Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送の試行的実施

参考資料  
第3回航空物流に関する懇談会  
資料(抄)(平成20年10月8日)

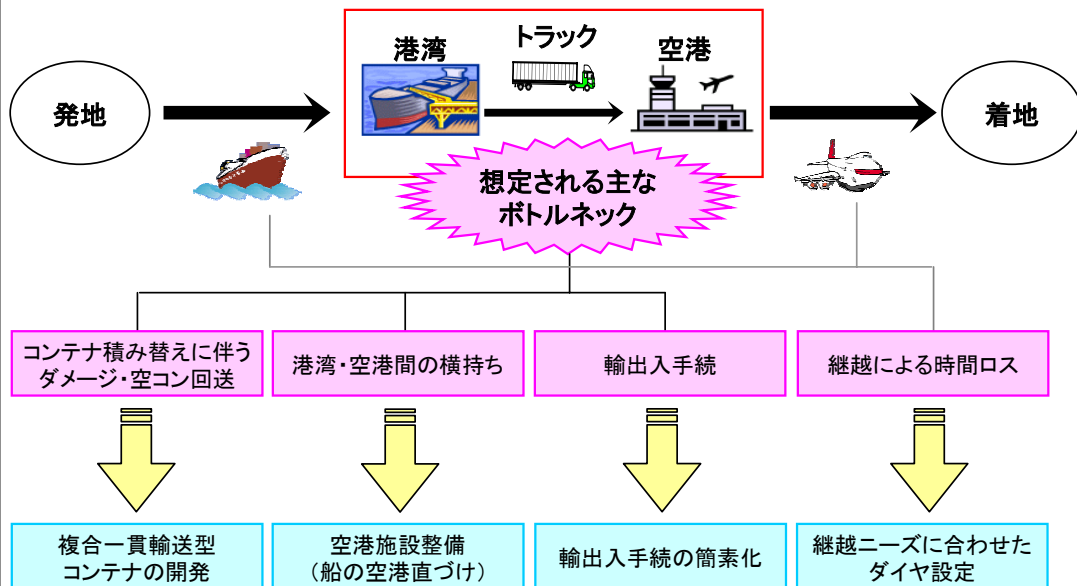
我が国における国際トランジット型Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送の導入可能性について、全国5地域の空港・港湾において検証する。更に、関西国際空港・阪神港においてトライアル(実証実験)を実施し、ハード・ソフト両面における具体的課題を抽出するとともに、その解決策の検討を行う。

### 平成20年度調査

仁川空港をモデルとして、関西国際空港と阪神港を連携させたSea&Air(シー・アンド・エア)輸送のトライアル(実証実験)を実施する。



### 検証内容



### 【当面の取組予定】

- 平成20年度 新千歳空港(苫小牧港)、羽田空港(京浜港)、中部国際空港(名古屋港)、関西国際空港(阪神港)、北九州空港(北九州港)において、導入可能性及び課題・効果の検証  
阪神港及び関西国際空港においてSea&Air(シー・アンド・エア)輸送の具体的課題・解決策の検討
- 平成21年度以降 Sea&Air(シー・アンド・エア)輸送対応のコンテナ、海上・航空共通トラッキングシステム等の開発検討